

地域将来計画

“人にやさしい町づくりをめざして”

平成 27 年 4 月 19 日 策定

第二地区まちづくり協議会

はじめに

(計画の背景と目的)

人口の高齢化や少子化、核家族化といった社会や家族のありようが大きく変化することもない、人の生き方も、ものの豊かさや心の豊かさを求めるだけでなく、「より良く生きる」「自分らしく生きる」といった生き方の質や幸福感を享受したいという想いが人々の間に高まってきました。

こうした流れの中で、松阪市においても、それぞれの地域が、自分たちの責任で、本当に自分たちのしたいことにお金を使いながら、地域の個性や魅力を活かした町づくりを進められるような仕組みをつくろうと、各公民館地域に対し、住民協議会の設置を呼びかけました。その呼びかけに応じる形で、平成 23 年度中に、それまでに設立されていた協議会も含めて 43 の地域に住民協議会が設立されました。

そして 3 年間、各住民協議会では様々な取り組みがなされてきました。わたしたちの「第二地区まちづくり協議会」においても、これまでの公民館活動の継続に上り、文化・スポーツ、福祉・防災などいくつかの分野で、新たな行事・取り組みを重ねてきました。

この町づくり計画は、こうした経過を踏まえつつ、5 年～10 年先の当地域を見つめながらの行動計画であります。少子高齢化が進み、一人暮らしの人が増えてゆくであろう近未来の現実をみつめながら、安心して生き生きと日々の生活を楽しむために、わたしたちはどういった地域社会を築こうとすべきか、その方向をみんなで確かめようとするものです。

第二地区のあらまし（概要）

第二地区まちづくり協議会の地域は、松阪市の中心市街地の一角にあり、13の自治会の地域で構成されています。昔の参宮街道に沿った地域で、愛宕町・平生町・長月町・五十鈴町などの商業地と、春日町・茶与町・南町・挽木町・垣鼻町などの住宅地が混在しています。世帯数は全域で約1,600世帯、人口は約2,600人です。よく言われるドーナツ化現象が当地域でも顕著にあらわれていて、子どもたちが他市や、市内の新しい住宅団地等に住居を構えることにより、一人暮らし、もしくは高齢者のみの世帯が増え、平成25年4月1日現在の高齢化率は実に41.8%を示しています。この数値は、宇気郷地区を除く旧市内のどの協議会地域と比較しても際立って高く、人口の高齢化は当地域の特性であるとともに、将来への大きな課題ともなっています。

居住環境は、地域内に6児童公園があり、小学校、保育所、交番、夜間応急診療機能を持つ健康センター、複数の内科、歯科等の個人医院、2つのスーパーマーケットなど、利便性には恵まれています。

挽木町には、松阪城の第三代城主古田重勝の墓所があり、青春時代の一時期を松阪で過ごした名監督小津安二郎の住居跡が、愛宕町の小津安二郎記念館となっているなど、町の歴史の名残もあちこちに散在しています。もうひとつのこの地域の特性として挙げられるのが、愛宕町という県下有数の飲食店街であり、春日町には松阪競輪場があります。

当地域の面積は、徒歩で端から端まで歩いて20分程度で歩いてしまうほどの広さで、様々なサークルが自治会の枠を超えて交流を重ねており、地区福祉会の活動も盛んで、お互いが顔見知りという関係性が認められそうな地域と言えます。

しかし、現在、旧興和紡績跡の開発が進められつつあり、新しい商業施設の誘致や139戸の住宅の建設が逐次行われようとしています。昔ながらの商店街や高齢化が進む旧住民と、新しい商業施設や新住民との交流が今後の大きな課題となります。

私たちがめざす、わが地域の将来像

私たちは、ただ生きるのではなく、楽しく生きたい。
生き活きと、生きがいのある人生を歩みたい。
そのために大切なのは、思いやりと、励ましの文化が息づく地域づくりである。

安全で安心な地域社会を築くためには、地域的な連帯は欠かせない。
将来、一人暮らしや、夫婦だけで暮らす高齢者世帯が増えれば増えるほど、地域住民の助け合いは大切になる。

“あんぱんまん”の作者やなせたかしは、つぎのように言っている。

「人間が一番うれしいことはなんだろう。
長い間、僕は考えてきた。
そして結局、人が一番うれしいのは
人を喜ばせることだということがわかりました。
実に単純なことです。
人は、人を喜ばせることが一番うれしい
人は、人が喜んで笑う声を聞くのが一番うれしい」

嬉しそうにしている人を見るのが楽しい、人が喜んで笑う声を聞くのが楽しい
気軽に挨拶が飛び交い、ねぎらいの言葉が飛び交う
励まし合う人びとの輪があちこちに広がっている

私たちは、そういう地域づくりをめざします。

将来計画

1. 楽しく活気あふれる町

(1) 気軽にあいさつのとびかう町に

(現状と課題)

現況は、地区内で気軽にあいさつが飛び交っているという状況にはありません。つき合いのある者同士でのあいさつは交わされても、顔見知りではあっても、よくは知らない人との間に気軽にあいさつが交わされるという状況にはありません。また、登下校時の子どもたちにあいさつをしても、あいさつをかえす子もいれば、無視して通り過ぎる子も少なくありません。

(将来計画)

気軽にあいさつが飛び交う町づくりに取り組みます。そのためにも、第二地区において気軽にあいさつが交わせるような標語をつくり、あいさつ運動を進めます。またこの運動は、地区内の小・中学校の児童生徒と一緒に取り組めるように、第二小学校・久保中学校にも働きかけます。

(2) 多彩なサークル活動の活発な展開をめざして。

(現状と課題)

当地区におけるサークル活動は活発で、公民館は連日いずれかのサークルによって使われていて、空いている日を探すのが大変です。しかし、こうした活動は、「スポーツ吹き矢」と「詩吟グループ」を除いては、ほとんどが女性によって占められています。

男性が興味を持って参加できそうなプログラムを探し、男性をグループ活動に駆り出すことが今後の課題といえそうです。

(将来計画)

町の魅力は、その町に住む人々が、どのような生き方をしているかによって決まると言われます。女性が幸福を感じることでできる社会こそが、私たちの目指すべき社会だと考えます。

当地域では、こうしたサークル活動をより活発に、より多彩に展開できるような環境を整えるとともに、高齢化の進捗に伴い増々活発になるであろう女子力が、のびのびと発揮できるような公民館運営をめざします。

また、ややもすると孤立化し、閉じこもりやすい男性を、さまざまな活動に引き出すことにも積極的に取り組みます。

(3)多くの人が気軽に参加できるスポーツの振興を。

(現状と課題)

スポーツの振興は、町に活気をもたらします。高齢化が進めば進むほど、スポーツの振興は益々大切な取り組みになります。かつては当地区においても、子どもを介したPTA繋がり、各町にスポーツ委員がいて、運動会やソフトボール大会などに興じていた時代がありました。しかし、少子高齢化が進む中で、小・中学生がどんどん少なくなるに従い、各町のスポーツ委員も姿を消し、いま、当地区のスポーツ委員はわずかに2名という現状にあり、スポーツ指導員の育成が今後の大きな課題と言えます。

当協議会発足後、新たなスポーツへの取り組みとして、平成24年度にグランドゴルフ大会を開催しました。すると、今まで一緒にスポーツを楽しんだ経験のない50人を超える方々が、和気あいあいとグランドゴルフに興じることができ、一挙に人の輪が広がった感がありました。改めてスポーツの威力の素晴らしさを感じさせられました。

(将来計画)

人口構成が高齢化すると、走ったり、投げたりといった運動会やソフトボールのような球技は、どうしても敬遠されがちになります。

体力に自信がなくても、スポーツの経験が少ない人でも、気軽に参加でき、大勢でわいわいと楽しめるようなゲーム感覚のスポーツを見出すことに努めつつ、より多くの人々が興じることのできるような催しをいくつも開催できるように、スポーツ指導員の拡充と育成に努めます。

(4)それぞれの分野における指導者の発掘を

(現状と課題)

地域の活性化を図るためには、そこに活躍する人がいなくてはなりません。とりわけ、それぞれの分野における指導者の発掘は重要な課題です。当地域にも、福祉・スポーツ・文化・防災などの分野で、地域の活動をけん引してくださる方がいます。しかし、人材はまだ不足しています。

(将来計画)

それぞれの分野における指導者の発掘に取り組むための組織を構築します。組織名を「人材発掘団」とします。団員は各部会より2名、民生委員より2名、自治会長より2名、公民館運営委員より2名、その他数名により構成します。団長はまちづくり協議会会長を当てます。スカウト会議は定期的を開催し、発見した人材への説得は「人材発掘団」が行います。

2. やさしい心のかよいあう町

(1) 高齢者にやさしい町づくりをめざして

(現状と課題)

第二地区まちづくり協議会の人口高齢化率（65歳以上の全人口に占める割合）は他地域と比べるとかなり高く、すでに42%を上回っています。今後、この傾向はますます進むものと思われ、まもなく2人に1人は65歳以上の高齢者となりそうです。

愛宕町、平生町、五十鈴町などの商店街は、後継者不足などにより、店の存続が危ぶまれる傾向もみられます。

人口の減少、高齢化、少子化は全国的な傾向で、松阪市でもこの傾向は避けられず、さらに中心商店街ではこの傾向が一層顕著になっています。また、それに伴いひとり暮らしの高齢者が増えてゆくことも今後の大きな課題となりそうです。

従って、第二地区の町づくりは、こうした予測される将来を見据えながら、高齢者が住みやすい、高齢者にやさしい町づくりがなによりも大切になると考えられます。

(将来計画)

ひとり暮らしの高齢者が年々増えてゆく社会を想定すると、そうした高齢者が地域社会とのつながりを少しずつ失いながら、孤立してゆくことが懸念されます。高齢者にやさしい町づくりをめざすうえで、人と人との出会いの場の確保、しっかりとした絆を紡ぐための仕掛けが今以上に必要となります。

当協議会では、そうした高齢者が集い合える場（以下「宅老所」という）を、2017年までに2か所、2020年までに5か所の設置をめざします。具体的には、はじめの2か所は春日町集会所と五十鈴町集会所を、週1回、曜日を定めて宅老所としての運営をはじめ、運営状況をにらみながら必要に応じて順次あらたな宅老所を用意してまいります。

(2) 高齢者と子供たちとの心の交流をめざして

(現状と課題)

当地域の地区福祉会では、福祉会の役員・ボランティアのメンバーが、地域で取り組む福祉教育として、早くから第二小の子どもたちに、「昔の遊び」「昔の暮らし」を伝える取り組みを長く続けてきました。まちづくり協議会が発足してからは、平成24年7月には、第二小の子どもたちと早朝の皆既日食観測会を、平成25年8月には、民主音楽協会の協力を得て、ワークセンターの体育館に市内の小学生とその親120人を集めて、「親子手作り音楽教室を」開催しました。また、凧作りや凧上げ、親子で楽しむ木工教室、夏休みの水難防止教育など、その都度工夫をこらした福祉教育に取り組んできました。

(将来計画)

地区福祉会による、第二小の児童を対象とする福祉教育は、これまでの継続の上に、その時々々の状況や課題に対応しつつ、新たな工夫や企画を試みながら、たえず新鮮な気持ちで臨んでいきます。

(3) 高齢者・児童の見守り体制づくりを

(現状と課題)

高齢者の認知症が原因の、行方不明者の急激な増加が昨今大きな問題になっています。当地域においても、第一包括支援センターの支援を受け、住民による「認知症見守り隊」を設置するとともに、さらに見守り隊員を第二小学校 5・6 年生の児童にも広げるための取り組みを今年からはじめました。

さらに、一人暮らしの高齢者の方に、「命のカプセル」をお届けする事業もはじめました。これは長さ 10 c m 程度の丸いカプセルの中に、(緊急時の連絡先) (持病) (かかりつけの医者) (いま飲んでいる薬) (その他医療に関する情報) 等の医療情報を情報シートに記入したものをカプセルに入れ、各自の冷蔵庫に収納しておくもので、このカプセルを装着した家庭は、玄関内部のわかりやすい位置と冷蔵庫表扉にそれを示すシールを貼り、救急時に備えようとするものです。

また、子どもたちについては、児童生徒数が年々減少を続けており、今年の小学一年生はついに 20 人を下回り、小・中学生が一人もいない町もいくつか生じるに至りました。そのため、児童生徒の登下校時の見守り体制に不備が生じる現況にあります。

(将来計画)

高齢化の進展により、認知症の方はますます増えると思われます。認知症の方の見守りは家族だけではとてもできません。地域全体で見守るためにはどうすればよいのか。お互いに何を心がけるべきなのか。高齢化率が 50% を超えようとする地域においては、もう他人ごとではありません。これから、積極的に「話し合い」「勉強会」を重ね、高齢者が安心して住める地域づくりを進めます。

また、「命のカプセル」の制度は、これからさらに拡充をめざし、高齢者のみの世帯、身体に障害のある方などにもひろげていくことを検討します。

子どもたちの見守り体制については、久保中学校青少年健全育成協議会、小・中学校 P T A 等との連携をはかりながら、新たな体制の構築に取り組みます。

3. 防犯・防災の整った住みよい町

(1) 防犯に関する組織づくり

(現状と課題)

防犯に関しては、市内で最大の繁華街と目される愛宕町を有する第二地区であり、これまでも、喧嘩やたかり、深夜の追剥や殺傷にまで至る暴力事件が起きたこともあります。このため、愛宕町を警察も要警戒地域とし、愛宕町の自治会長が防犯の会長を兼ねています。

また当地域内においては、昼間、家を留守にしている間に空き巣に入られるということも、しばしば起きております。

こうした状況が速やかに改善されるとは考えられず、当地域における防犯への取り組みは、今後もひきつづき重要な課題と考えられます。

(将来計画)

第二地区の各自治会毎に自警団を結成するという事は、自治会員が減少し、高齢化の進む状況の中では難しいと言わざるをえません。また、繁華街で起きる暴力事件などへの対応は、警察に頼らざるをえません。

従って、第二地区としては様々な事例を想定して、警察、消防等との事件発生時における情報の伝達及び対応の訓練に取り組むことを検討します。

また、当地域が防犯に真剣に取り組んでいるとの情報発信のために、各自治会の掲示板に、「暴力行為を許さない」「空き巣を狙われています」などのポスターを掲示するなどして、犯罪の防止に積極的に取り組んでいる地域であるとの印象を与えるような取り組みを強化します。

(2) 防災に関する組織づくり

(現状と課題)

防災に関する組織づくりは、大所帯である春日町においては早くから自主防災組織が結成され、毎年、防災訓練が行われてきましたが、他の自治会においては自主防災組織は結成されていませんでした。しかし、平成 23 年 12 月に当まちづくり協議会が設立されてから、防災・防犯部会の設置により防災への取り組みは年々強化され、平成 25 年度には、当地域全体の取り組みとして大規模な防災訓練を実施し、平成 26 年度にはほぼすべての自治会で自主防災組織が結成されました。

しかし、当地域は、火災による大規模な災害の経験はあるものの、台風・地震といった自然災害による被害の記憶は乏しく、このため防災意識も今なお低い状況にあります。

(将来計画)

そう遠くない将来に、東南海地震などの大規模な災害の発生が予測されているにも関わらず、地域住民の危機意識はなお薄い中で、早急な防災意識の発揚が望まれます。当地域では、春日町の自主防災隊を中核に、年々、様々の防災訓練を積み重ねる中で第二地区として機能できる防災組織の構築を急ぎます。

(3) 防災活動の指導者づくり

(現状と課題)

防災活動の指導者としては、防災部会の正副部会長が自治会連合会の防災部会員として各種の防災研修に出席して、指導者としての知識の習得に努めているのが現状で、本格的な防災指導者の育成が望まれます。

(将来計画)

自助・互助・協働を原則として、防災の意識・知識・技能を持つとNPO法人日本防災機構に認められた防災士の育成が急務です。このため、今後 5 年間にNPO法人日本防災士機構に研修生派遣し、防災士の育成に取り組みます。

(4) 交通安全のための町づくり

(現状と課題)

当地域の道路事情に関しては、挽木町・愛宕町・長月町・南町・茶与町・春日町を走る国道 42 号、平生町・愛宕町・垣鼻町を貫通する旧参宮街道、春日町の縁を走る環状線が二車線道路で、車の交通量も多く、速度も出ていて、交通事故の起きる頻度は少なくありません。特に愛宕町交差点から大黒田交差点の間の国道 42 号での事故発生は、重大事故に繋がるのが憂慮される状況にあります。

その他の地域内を走る生活道路についても、見通しが悪い箇所がいくつもあり、出会いがしらの事故が心配されます。

(将来計画)

少子化にともない、子どもを通した地域コミュニティ（近所づきあい）の希薄化が進み、子どもや高齢者の安全が低下することへの対策として、地域の児童と保護者、地域住民、教職員が一体になって、地域内（特に学校周辺）の危険個所について点検を実施し、危険個所に関する「地域安全マップ」を作成します。

また、二車線道路を除く地域内を走る道路については、殿町地区で実施されている「ゾーン 30」の施策を、当地域にも展開できるようにし及び警察に働きかけ、事故の減少、事故の重大化の阻止などに取り組みます。

4. 町づくりの具体計画

(1) 楽しく活気あふれる町

| 事業名 | 事業内容 | 主体 | スパン | 予定期 | 備考 |
|------------------|--|----|-----|------|----|
| 1 気軽にあいさつの飛び交う町 | 地域内の小中学生とのあいさつ運動の合同での取り組みを進める。 あいさつ運動のための標語づくり。 | 自主 | 短期 | H27 | |
| 2 多彩なサークル活動の展開 | 女性が主体的に参加できる活動の推進と、引きこもりがちな男性の活動参加への取り組み。 | 自主 | 短期 | H27～ | |
| 3 気軽に参加できるスポーツ振興 | スポーツ経験の少ない人でも気軽に参加できる高齢者向けの新しいスポーツの発見とスポーツクラブの結成。 | 自主 | 中期 | H29～ | |
| 4 指導者の発掘 | 人材発掘のための「人材発掘団」組織の構築と人材発掘事業の実施。 | 自主 | 中期 | H28～ | |

(2) やさしい心のかよいあう町

| 事業名 | 事業内容 | 主体 | スパン | 予定期 | 備考 |
|------------------|--|----|-----|--------------|------------------------|
| 1 高齢者にやさしいまちづくり | 一人暮らしの高齢者を支え合う体制づくり。 宅老所の設置。 | 協働 | 長期 | H28～ (継続) | H29 (2か所) H32 (5か所) |
| 2 高齢者と子どもたちの心の交流 | 学校教育と連携した、地域の高齢者と合同の地域福祉教育の推進。 今の遊び、昔の遊びの交流事業の実施。 | 協働 | 短期 | H27～ (継続) | 4回/年 |
| 3 高齢者・児童の見守り体制 | 地域住民による「認知症見守り隊」の結成。 小学校での認知症啓発授業の実施。 「命のカプセル」制度の充実。 | 協働 | 中期 | H27～ (継続) | |

(3) 防犯・防災の整った住みよい町

| 事業名 | 事業内容 | 主体 | スパン | 予定期 | 備考 |
|----------------|--|----|-----|--------------|--------|
| 1 防犯に関する組織づくり | 防犯活動における警察消防との連携強化。犯罪撲滅のためのポスターの作成、掲示。 | 協働 | 中期 | H27～ (継続) | |
| 2 防災に関する組織づくり | 地震災害対策としての防災意識の発揚。 第二地区全体での防災組織の構築。 | 自主 | 長期 | H27～ (継続) | |
| 3 防災活動の指導者づくり | 防災活動の指導者の養成 (地域防災士の育成) | 自主 | 長期 | H30～ | 研修への参加 |
| 4 交通安全のための町づくり | 事故防止のための取り組み (地域安全マップの作成) (ゾーン30の取り組み) | 協働 | 長期 | H27～ H31～ | |